



KYOTO



KEIKAN
FORUM

2020

京都市景観整備機構
NPO法人京都景観フォーラム
「年次報告書」

ANNUAL REPORT



CONTENTS

- 02 コロナ禍での活動を振り返って
- 03 地域サポート活動
- 04-05 三条通「まち・みちプロジェクト」/近代建築 WEEK2020
- 06 エリマネット活動/KYOTOメモリーグラフ
- 07 受託事業
- 08 次年度京都景観エリアマネジメント講座紹介/京都景観フォーラムWEBサイト紹介

京都景観フォーラムが考える これからの「景観まちづくり」

景観整備機構 NPO法人京都景観フォーラム

理事長 内藤 郁子

パンデミックによる自粛を余儀なくされてから、もう一年以上が経ちました。未だに終息が見えません。私たちの生活も、人と人の関係の取り方も、随分と変わってしまいました。個人の人間性にも影響を与えています。

こんななかで、私たちは、新しいライフスタイルも習得しました。オンラインでも、色んなことが可能で、必ずしも移動をして集まる必要もなく、効率がよいことも解りました。これから、コロナが終息しても、もう元と同じ生活に戻ることはないと思われれます。

しかし、やはり人と人のつながりが大事だということも改めて感じます。顔を見て表情や雰囲気を感じ取りながら、関係性を作っていくことが、社会を滑らかにしているのだと思います。アフターコロナは、修復と再構築が課題となるかもしれません。私たち景観フォーラムは、これからも人と人にあるものを大切に、まちづくりに関わっていきたいと考えています。

新しい活動方法の模索、そしてチャレンジ ーコロナ禍での活動オンライン化ー

文：黒田 素子 Kuroda Motoko



2020年度はコロナ禍のなか、強い自粛要請を契機に、京都景観フォーラムでも会議やイベントのオンライン化の取り組みが一気に進みました。

はじめはツールを調べ、使う機材を少しずつ購入するところからはじめました。カメラの切り替え方法を学び、マイクの音質にこだわる必要性を理解し、トラブルの際の対応を検討して…。ひとつひとつが試行錯誤でした。

エリマネネットや地域のイベントの配信、会議のオンライン開催等のお手伝いをして、少しずつ経験を重ねさせていただきました。年度末の「京都景観ゼミナール」や「景観市民会議」では、講義の収録、資料を用いた

プレゼン、講師との質疑応答、参加者の意見交換などを組み合わせたオンラインイベントをバックアップしました。

今後も、状況に柔軟に対応して様々なコミュニケーション方法を取り入れながら、活動を進めていきたいと考えています。



鴨川運河会議と高松橋ひろばづくりの会 —地道な取組みが、土木学会関西支部地域活動賞に—

文：篁正康 Takamura Masamichi



立ち上げ時より支援している鴨川運河会議では、前年度の土木学会選奨土木遺産認定に続き、土木学会関西支部地域活動賞を受賞しました。これまであまり関心を寄せられることのなかった琵琶湖疏水の一部である「鴨川運河」を、個性的でかけがえのない地域資源としてとらえ、地域のくらしを豊かにする存在として保全活用を考えていく地道な取組みが、徐々に評価されるようになってきました。

また、今年度は例年の活動に加え、「鴨川運河 橋の事典」の発行、鴨川運河紹介動画の作成、航空写真長尺マップの作製、一之橋の3Dスキャニングなど、多くの新しい取組みが行われ、そこにも景観エリアマネージャーがお手伝いしています。

一方、市民によるひろばの整備・活用を進める「高松橋ひろばづくりの会」では、鴨川運河の選奨土木遺産認定記念と合わせ、「高松橋ひろば完成を祝う会」を10月に実施されました。ようやく工事が終了し、今後は道路区域としての位置づけの中、一部の植栽管理や場の活用を、高松橋ひろばづくりの会が担っていくこととなります。その範囲や役割等について、行政とひろばづくりの会とが覚書を交わし、早速、クローバーの種まき作業が行われました。



嵐山地区での活動サポート

—「景観づくり計画書」、京都市により認定される—

文：高橋裕美 Takahashi Yumi

京都景観フォーラムは、地域活動サポートとして、嵐山まちづくり協議会の地域景観づくり協議会制度の認定及び地域景観づくり計画書の策定に向けて支援を行ってきましたが、10月1日付けで「景観づくり計画書」が京都市の認定を受けることになりました。



これに先立って行われた認定式には、コロナ禍でも頑張っている地域を応援したいと、門川大作市長も出席され、牧野順二嵐山まちづくり協議会会長に認定書を授与されました。これを機に協議会活動が本格的に始まり、京都景観エリアマネージャーが事務局メンバーに参加することになりました。

協議会エリアは、商店街を中心とした長辻通界わいと、大堰川や渡月橋からの美しい眺望を誇る大堰川左岸と、水辺を活かした憩いの空間を創出する中ノ島公園を囲む範囲にあたります。まさに嵐山を代表する自然と歴史的建造物の調和した美しい景観を守り育てるために、嵐山らしい景観とは何か、嵐山らしいまちづくりとは何かについて地域の人々と共に考えていきたいと思えます。

コロナ マナーアップポスター 景観仕様の制作

—京都市地域景観まちづくりネットワークの取組み—

文：森川宏剛 Morikawa Hiroyoshi



今年前半の新型コロナウイルスの蔓延が景観まちづくり活動に与えた影響は大きく、各地域及びネットワークの活動が停止する事態となりました。

そのような中、新しい生活様式に基づき、暮らしや経済を再生していくという動きが生まれ、行政が制作したポスターの掲示依頼がありました。本ネットワークでは、趣旨には賛同するものの、そのデザインが地域の景観には相応しくないと考えました。

そこで啓発の趣旨は変えず、地域景観に相応しいポスターデザインを自分たちでつくって、各地域に配布・掲示する取組みを行うこととしました。

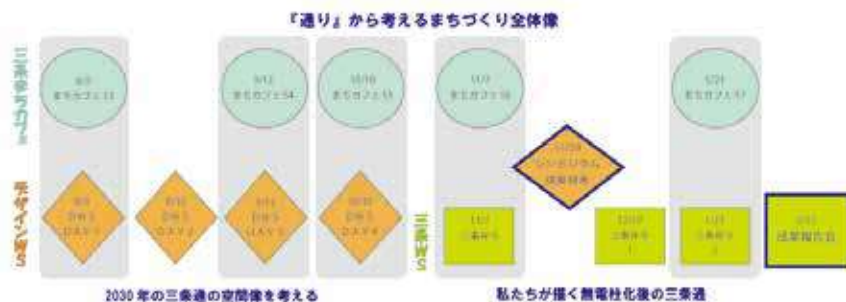
5種類のデザインを用意し、場所によって使い分けただく形としました。

地域に対して行政からのポスター等の掲示物はたくさん届きます。単体では一時的・仮設的なものですが、その数の多さから、常に地域景観の中に存在するものとなっています。今回の取り組みは、その状況を改善していくための提案の一つにもなればと考えています。(京都景観フォーラムは、京都市地域景観まちづくりネットワークの事務局としてお手伝いしています。)

三条通のまちづくり

「通り」から考えるまちづくり —三条通みちとまちのワークショップ—

文：高橋 裕美 Takahashi Yumi



「京の三条まちづくり協議会」(以降「協議会」)は、三条通の新町から寺町の「界わい景観整備地区」に指定されている区域にある7つの町内会をベースに、1995年に設立されました。京都景観フォーラムは、さまざまな形で「協議会」の活動をお手伝いしています。

2019年3月に三条通が京都市の無電柱化早期着手道路に指定されたことから、2020年度は、無電柱化後の三条通の可能性とまちの在り方について検討するために、『通り』から考えるまちづくり～三条通みちとまちのワークショップ』に取り組むこととなりました。年度当初は公募による「三条通デザイン・ワークショップ」



と、恒例の「京の三条まちづくりカフェ」(通称「まちカフェ」)、地元住民と無電柱化後のみちの整備について考えるワークショップ、の3つの流れで開催を予定していましたが、しかしコロナ感染症の関係で、3つを集約した形で実施することとなりました。

「三条通デザイン・ワークショップ」のサポート

「三条通デザイン・ワークショップ」は、「2030年の三条通の空間像を考える」をテーマとして、学生と30歳以下の社会人を対象に募集をしました。合わせて17名の参加者が集まり、8月からスタートとなりました。参加者は4つの班に分かれ、各班にサポーターとして三条に関係する方3名と、京都景観エリアマネージャー2名が付きましました。若者たちへ情報を提供し、議論を後半の三条のワークショップに繋げていくことが役割でした。まちカフェを組み合わせた4回のワークショップを経て、11月に、10年後の三条通の将来について若々しい提案が発表されました。



「私たちが考える無電柱化後の三条通」

この提案を受けて、11月以降は「私たちが考える無電柱化後の三条通」と題するワークショップに取り組みました。これは三条に関係する方々が主役となって、自分たちで三条通の将来像を描くことを目的とし、ここでも京都景観エリアマネージャーがファシリテーターとして参加しました。

京の三条まちづくり協議会の歴史やこれまでの経緯を知る事から始め、協議会のビジョンである「品格ある三条通を守り育てるための6つの心得」を読み解きながら、地域の方の思いを引き出し言葉にする作業を繰り返しました。そして、具体的な将来像をイメージできるように、「両替町」「東洞院」「高倉」「堺町」「御幸町」の5つの場所を選び、「道路舗装」「街路灯」「道路空間の使い方」の観点から出されたキーワードを整理して、それぞれの場所で大切にしたいテーマを選び、まちのストーリーとして文章に表現しました。この今年度の取り組みは、「三条通 デザイン・アイデアブック」として発行しました。

京都市の無電線電柱地中化事業は、3年ほど先延ばしになりましたが、ワークショップで描いた将来像を基にして、より多くの三条の関係者と交流を深めながら、次年度の活動に繋げていきたいと思ひます。



音楽も楽しめる多様なあふれる三条

- 日常的に歩行者が主役の空間づくり
- 地域の人ももっと楽しめるイベントを開催

【概要】

三条通の歩行者スペースを思い描くことであり、日常的に歩行者が主役の空間づくり。三条通の歩行者スペースを思い描くことであり、日常的に歩行者が主役の空間づくり。三条通の歩行者スペースを思い描くことであり、日常的に歩行者が主役の空間づくり。

街景のストーリー

賑やかなアーケードを歩くと、窓が並び、大きな空間を感じる通りとなります。三条通には、明治建築の趣向や、ロマンチックな装飾が施されている建物が、目玉となる店舗などがあります。近くには古道具屋も多く、需要がたかさんでいます。駅前周辺から歩行者の往来は、日常的に歩行者が主役の空間づくりです。ぜひお好みのスペースで、グッズやクラフトの展示などが行われています。その際には、お好みのアーケードや、行灯などがあられ、お祭りや各種イベントを開催し、行灯や、また、通りもどきのアーケードや装飾的な空間を演出して、店舗や店舗に合わせたイベントが行われ、人々が滞在する空間になっています。

■ 賑わいは高層階のある建物などで、窓の透けは心地よい印象を醸成させる。歩行者空間として通りを広く確保する。歩行者空間は閉鎖的な空間にならないように、歩行者の立ち止まりのスペースや、アーケード商店街との連続性を考える。

■ 街灯の明るさ・色温度は歩行者、観覧車の歩行者が歩いたときに賑わいを醸成させる。明るく見やすいカラーとする。

■ 賑わいの空間を確保する。歩行者空間を確保するイベント。

■ 賑わいの空間には多様な要素。

時間による道路の高層な使い分け

平日や平日の夕方から夜にかけては、歩行者の交通量が多い歩行者空間（歩行者専用道路）が活用し、移動の利便性や歩行者が通りやすい。多くの人でにぎわいます。このように歩行者空間に活用し、歩行者空間を確保する。歩行者空間を確保する。歩行者空間を確保する。

三条通の歩行者専用道路（歩行者専用道路）

賑わいのある路上イベントの開催

歩行者空間により、道路を一体的に活用したイベントを開催しています。たとえば、商店街と連携したイベントを開催する。賑わいのある路上のイベントを開催する。賑わいのある路上のイベントを開催する。

三条通 JAZZ OPEN STREET

イベント時などに備えるストリートファニチャー

イベントを行う際には、道路にテーブルやイスを設置し、歩行者のイベントで賑わいを演出する。これらのストリートファニチャーは歩行者空間を確保する。歩行者空間を確保する。

三条通 JAZZ OPEN STREET

三条通にふさわしい高層階のある街景

三条通の歩行者空間から歩行者に、三条通の歩行者空間を確保する。歩行者空間を確保する。歩行者空間を確保する。

三条通 JAZZ OPEN STREET

近代建築 WEEK 2020

—三条通の近代洋風建築群 まちにねがす—

文：簗正康 Takamura Masamichi



京の三条まちづくり協議会が取り組む、近代洋風建築を市民が親しめる存在とする9日間のイベントについて、企画、各主体間の調整等の支援を行いました。今回は、「三条通の近代洋風建築群—まちにねがす—」をテーマに、シンポジウム、ツアー、ワークショップ、スマホアプリラリーなどを実施しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、シンポジウムはYouTubeでの配信、ツアー関係は5名程度ずつといった形式での開催となりましたが、多くの方にご参加い

いただきました。

今年度は特に小学生を対象に、学校では学習しない近代洋風建築を地域の宝物として認知してもらうことを目指し、クイズやラリーを交えた「近代建築探検隊」と題したワークショップを実施しました。京都ではステータスの低い近代洋風建築ですが、子どものころからのこういった経験を通して、心にねがす存在となっていくことを期待しています。



エリマネネット活動 (※エリマネ：京都景観エリアマネージャーの通称)

－オンライン配信を活用したスキルアップ－

文：高橋 裕美 Takahashi Yumi



今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多人数がリアルに参加する勉強会の開催を見合わせ、オンライン配信の企画を実施しました。

◆第1回：令和元年度の京都市景観市民会議のテーマ「京都らしい魅力ある夜間景観づくり」に関わったエリマネのメンバーから、京都らしい夜間景観とは何かについてのトークセッションをオンライン配信しました。

◆第2回：リモートでの会議やワークショップに対応したスキルアップを図りたいという声に応じて企画。前半は、理事の森川が「まちづくり組織を立ち上げる、その時に」をテーマにプレゼンテーション。後半は、各グループに分かれてワークショップを行い、オンラインでの機材の使い方や進行方法、リモートでファン

リテーターや書記のスキルを学ぶことができました。

◆第3回：「新景観政策の更なる進化パブコメ勉強会」及び「京都市歴史的風致維持向上計画（2期）に関する市民意見及び年中行事等の写真並びに継承方法の提案募集について」がテーマ。

エリマネでもある京都市都市計画局景観政策課の村上氏に説明をして頂きながら、リアルとオンラインの双方で、参加者が意見交換を行い京都市の政策について理解を深める機会になりました。



エリマネファイル立ち上げに向けて

－エリマネ動画制作への取り組み－

文：土谷 真咲 Tsuchiya Masaki



昨年度からエリマネネットの活動が本格的に始まったことを受け、エリマネ同士の交流、研究会・勉強会などの様子をウェブサイト上で積極的に情報発信してきました。しかし今年度はコロナの影響で集まりが減ってしまったこともあり、どのような方法でエリマネの活動を外に見せていけばいいのか、いま一度考え直す必要がありました。



そこで思い至ったのが、「エリマネの皆さんひとりひとりの、活動とキャラクターを紹介する」取り組みです。

それぞれが違った専門分野や背景を持っていることは、エリマネの最大の魅力です。今まで見えにくかった“人”に焦点を当てることで、その多様性と、エリマネのネットワークの強みを伝えることができるのでは、と考えました。

さらに今回は新たな試みとして、情報発信のツールに動画を選択。撮影や編集の協力を得ながら、テキストや写真だけでは表現しきれなかった皆さんの雰囲気や映像で伝えるように心がけました。第一弾の動画制作に協力してくださったのは、第6期の梅野さん、青山さん、第7期の前田さんの3名です。今後は「エリマネファイル」という企画のもと、紹介するエリマネの数を増やしていけたらと考えています。



▼今回制作した3名の動画は、こちらからご覧いただけます。

https://kyotokeikan.org/activity/am_file/

KYOTO メモリーグラフ

－アプリによる古写真アーカイブとまちあるき－

文：黒田 素子 Kuroda Motoko



「KYOTO メモリーグラフ」は、スマホの写真機能で昔の写真と現在のまちなみを重ねて比較できるアプリです。2020年度は、三条通と鴨川運河において、「KYOTO メモリーグラフ」を使って計3度のワークショップツアーを実施しました。古写真のアーカイブは、昨年度までの京都駅周辺の市電、三条通の近代建築に加え、鴨川運河にかかる橋が加わったこととなります。

鴨川運河では、被写体となっている橋の形の変化以外にも、画角のずれから、撮影者が立つ土手の高さが変わっていることに気付かされる場面もありました。

風景の移り変わりを比較して見ることで、まちと人とお互いに影響を与え合いながら現在に至っていることがわかり、地域のなりたちを思いを巡らすことができました。



令和2年度京都市景観市民会議 -地域ビジョンにもとづく景観まちづくり-

文：篁正康 Takamura Masamichi



京都市の景観政策を検証し、そこに市民意見を反映させる仕組みである「景観市民会議」を受託し、企画運営を行いました。

コロナ禍の影響もあり、セッション1として小グループに分かれたフィールドワークを実施し、セッション2として別日に全体でオンラインディスカッションをする、という2段階構成の開催となりました。

セッション1では、みどりと安らぎのまちなみの特徴とする「桂坂」、伝統的元学区のコミュニティがある「修徳学区」、無電柱化が進む伝統的花街の「先斗町」、近代以降の多様性があふれる「三条通」と、景観まちづくりが行われている地域の中でも性格の違う4地域をピックアップしました。各地域、市民参加者5名程度が1グ

ループになり、地域の方に案内いただき実際にフィールドワークすることでその取組みを理解しました。

セッション2では、昨年度に引き続き門内輝行氏、大島祥子氏のコーディネートのもと、市民参加者、建築関係団体の専門家、地域の案内人が、議論を深めました。地域住民の参加度の低さが課題になることも多く、みんなで考え・みんなで決める原則を維持し、広く一般が関わりやすい環境づくりが必要だという意見などが出されました。



京都景観ゼミナール -「景観まちづくり」を基礎から学ぶ-

文：村井直也 Murai Naoya



本年度の「京都景観ゼミナール」は、京都市景観政策課から委託された京都市景観・まちづくりセンターが実施しました。そのサポート事業を京都景観フォーラムが同センターより受託して行いました。

◆新型コロナウイルス感染症への対応

本年度は新型コロナウイルス感染症の広がりから、三密を避ける必要があり、三者で検討の結果、オンラインでの実施となりました。スタッフも政府や京都府、京都市のガイドラインに沿って、三密の回避、マスクの着用、手洗いの励行などを実施しながら運営を行いました。

◆ゼミナールの内容

この講座は、市民が地域で景観を見たり、考えたりす

るポイントや「景観まちづくり」を実践するための知識を基礎から学べるものを目指しました。

講座内容は京都市の景観政策や景観についての基礎知識、地域の取組み事例、まちづくりの進め方など。参加者はオンラインでの講義やバーチャルまち歩き、オンラインでのワークショップなどを通して実践的に学び、意見交換をし、最終的にはまちづくりビジョンのグループ発表をオンラインで行いました。以上のことから、今回は参加者が一度も実際に会うことなく「非接触型」のゼミナール運営となりました。

令和3年1月14日(木)に第1回の講座を開始、1月28日に3回の講座を終え、修了式を実施しました。



▼京都景観ゼミナールについては
WEBサイトでも紹介しています

<https://kyotokeikan.org/2021/02/09/2356/>

京都市建築協定連絡協議会の事務局運営 -42の運営委員会ネットワークをサポート-

文：黒田素子 Kuroda Motoko



機関紙「建築協定だより」
最新号の表紙

建築協定とは、地域にあった建築物のルールを地域住民の合意によって定めることができ、地域内で建築行為がある際には建築行為を行う人と運営委員会が事前協議を行ってルールに合っているかをチェックする仕組みです。連絡協議会は、京都市内で建築協定を締結している42の運営委員会からなるネットワークです。

2019年度に京都景観フォーラムが事務局のお手伝いをはじめてから、「地域にとって役に立つ情報というのは、同じように悩み、工夫をしている別地域との繋がりや運営ノウハウの共有なのではないか」という考えのもと、委員会間の小規模交流会をたくさん開こうという企画をあためてきました。

ところが、2020年度は当初からコロナ禍の影響を

受けてしまい、交流会どころか、総会も役員会も、開催ごとに方法を検討するような状況が続きました。各地区からも、「地藏盆も運動会もなくなって、ちょっとした話し合いがぜんぜんできないんです」という声が聞こえてきました。それぞれの場面で、オンライン会議を試したり、メールでの情報共有を工夫してみたりしながら、なんとか乗り越えてきたのが、2020年度でした。

この年度末にあたり、あらためて地域の方にお訊ねすると、いろいろな方法を試しながら、コミュニティ活動を進めているというお話を伺えるようになってきました。こういった地域の方の苦労が共感され、工夫が共有されるよう、引き続き、繋がりをサポートしていきます。

京都景観エリアマネジメント講座 をリニューアルし再開します！

3つの柱で
景観とまちづくりの基本を学びます。



▼京都景観エリアマネジメント講座に
ついてはWEBサイトでも紹介しています
<https://kyotokeikan.org/activity/course/>

2020年度は、コロナ対応のため、京都景観エリアマネジメント講座（エリマネ講座）の開催を残念ながら中止しました。景観フォーラムにとっては基幹事業ですので、大変残念なことだったのですが、1年間のお休みをいただいたことを機会として、10年にわたり、続けてきた講座をリニューアルすることとしました。

2021年度からの講座は、若い世代中心の講師陣とし、基礎講座にもワークショップを採り入れ受講生同士の交流や体験の機会を増やしています。また京都景観エリアマネージャーの先輩達との交流機会も多くとっています。多くの人に受講していただき、エリマネの輪を広げていきたいと思っております。

NPO法人 京都景観フォーラム WEB サイト

<https://kyotokeikan.org>



京都景観フォーラム

検索

※スマホにも対応しています

景観・まちづくりに関する活動情報をお届けします。

■ 最新の情報をお届けします！
まちづくりトピックス

■ 京都景観フォーラムの
活動紹介

■ 京都景観エリアマネジメント講座
カリキュラム・受講者の声を掲載

■ イベント・シンポジウムの
開催情報もこちらから

編集 / 京都景観フォーラム 広報委員会 デザイン・印刷 / 有限会社エイブル

発行 2021年5月16日



NPO法人 京都景観フォーラム

<https://kyotokeikan.org/> 〒600-8191 京都市下京区五条高倉角塚町 21 番地 事務機のウエダビル 206

KYOTO KEIKAN FORUM

TEL: 075-354-5224 FAX: 075-491-9663 MAIL: kkf@kyotokeikan.org